

派遣専門家オリエンテーション資料

カタール

State of Qatar

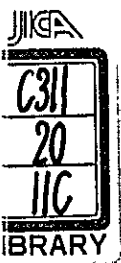
任国情報

1996年



国際協力事業団

国際協力総合研修所



はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家、プロジェクト調整員等JICA関係者の皆様より多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

平成8年3月
国際協力事業団
国際協力総合研修所長



1126189[8]

目次

I 概 況	1
II 生活事情	7
1. 食生活	7
2. 衣 料	10
3. 住 宅	12
4. 医 療	14
5. 教 育	17
6. 家庭の使用人	19
7. 交通事情	21
8. 通 信	23
9. マスコミ	25
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ	26
11. その他のサービス	30
12. 観 光	31
13. 治安、緊急時の心得	33
14. 出入国手続および帰国手続	34
15. 私財の輸送、引き取り、購入	36
16. 社 交	37
17. 任国官公庁	39
18. 在外日本関係機関など	40
19. 地方都市	41

I 概 況

表-1：カタール概況

a) 正式国名	(和文) カタール国 (英文) State of Qatar
b) 独立年月日 旧宗主国	1971年9月3日 英国
c) 政 体	首長制 (世襲制)
d) 元首の名称	シェイク・ハリーフア・ビン・ハマド・アール・サーニ (H.H. Sheikh Khalifa Bin Hamad Al-Thani) 首長 (1972年2月就任、任期3年が、75、78、82、86、90年に延長され、現在の任期は94年まで)
e) 位置・面積	北緯25度 東経51度 11千平方キロメートル (注1)
f) 首 都	ドーハ
g) 総人口	508,000人 (1992年) (注1)
h) 公用語	アラビア語
i) 民族等	アラブ人。他にパキスタン人、インド人、イラン人等。
j) 宗 教	イスラム教スンニ派 (ワッハーブ宗)、シーア派、キリスト教
k) 暦	<日本との時差> -6時間 <祝祭日> (1995年) (注2) * 2月1日 ラマダン入り 2月22日 国王即位記念日 * 3月3日 ラマダン明け (Id al-Fitr) * 5月10日 犠牲祭 (Id al-Adha) * 5月31日 イスラム新年 9月3日 建国記念日 * 12月20日 モハメッド昇天日 (Leilat al-Meiraj) (* イスラム暦のため年により日付けが変わる祝祭日)

出所 (注1) World Development Report 1994 The World Bank

(注2) The Europa World Yearbook 1994 Europa Publications

(1) 国土の概要

カタルは、アラビア半島の東岸中央部がペルシャ湾に小さく突き出た半島国で、北緯25度、東経51度に位置し、アラブ首長国連邦とサウディ・アラビア、イラン、バハレーンに国境ないしは経済水域を接している。面積は約1万1,000平方キロメートル（世銀資料、1994）で、秋田県のアラビヤの面積に匹敵する。

国土の大半は岩石の露出した不毛の砂漠で、最も高い部分で海拔100メートル程度（東京書籍資料、1993）に過ぎない。

(参考文献)

『世界各国要覧 7訂版』 1993 東京書籍

『世界年鑑』 1994 共同通信社

World Development Report 1994 The World Bank

(2) 気候

小半島がペルシャ湾に突き出した形になっているので朝夕は微風に恵まれているが、湿度が高く、冬季の11～3月は湿度が一時的に100%に達することもある。また、冬は雷を伴った土砂降りの雨で町中がぬかるみと化すことが時々ある。しかし、砂嵐に見舞われることはまれにしかなく、夏季の4～10月は日陰なら50度を超すことはほとんどないが、非常に暑く湿度は約85%にもなり、最も暑い7～9月は最高気温が45度となることがある。年平均降水量は39ミリメートルである（以上数値は国際農林業協力協会、1991）。また、冬季の平均気温は10～20度で、最も乾燥する月は8月、最も湿度が高い月は12月である（以上数値はEIU資料、1994）。

(参考文献)

『開発途上国の基本統計』 1991 国際農林業協力協会

『世界各国要覧 7訂版』 1993 東京書籍

Country Profile : Bahrain, Qatar 1994-1995 1994 EIU

(3) 人口

カタルの総人口は、1992年には50万8,000人（世銀資料、1994）となっている。

1987年現在、総人口のうち約60%の21万7,000人が首都ドーハに居住している（以上数値は共同通信社資料、1994）。このほかレイヤンに9.2万人、ワクラに2.4万人、ウム・サラルに1.1万人が居住している（以上数値はEuropa社資料、1994）。

(参考文献)

「カタル国概要」 1992 外務省

『世界年鑑』 1994 共同通信社

The Europa World Yearbook 1994 Europa Publications

World Development Report 1994 The World Bank

(4) 略史

表-2: カタル略年表

年	出来事
18世紀	クウェイトのバニ=ウトバ族がカタル半島及びバハレーンに進出、バハレーンの首長であるハリーフア家が支配
1820年	英国と湾岸首長国の間で海賊行為と奴隷貿易を禁止する平和一般条約を締結
1868年	サーニ家首長ムハンマド、英国と海上平和、近隣首長国との友好関係に関する協定を締結、サーニ家による支配確立、カタルはバハレーンより分離
1872年	トルコのオスマン帝国に編入される
1913年	英・トルコ協定によりカタルの自主権認められる
1916年	英国との間に排他条約締結、英国の保護下に入る
1967年	英国、スエズ以東から軍事的撤退宣言
1971年	独立
1972年	無血宮廷クーデターによりハリーフアが新首長に就任
1976年	アブドゥル・アジーズ殿下下訪日 第48回OPEC総会開催（於ドーハ）
1977年	1972年以来空席になっていた皇太子に現首長長男ハマドが就任
1978年	国内石油会社完全国有化の布告 バハレーンと国境紛争（ハワール島をめぐる）
1981年	GCCに加盟
1983年	ドーハで第4回GCC首脳会談
1984年	ハリーフア首長、国賓として来日
1986年	領有地をめぐりバハレーンと武力紛争
1991年	湾岸戦争に際してイラクを非難し地上戦に陸・空軍を派遣
1992年	有識者の請願を受ける形で内閣改造が行われた

(注) GCC: Gulf Cooperation Council 湾岸協力会議

出所 「カタル国概要」 1992 外務省

『世界年鑑』 1994 共同通信社

The Europa World Yearbook 1994 Europa Publications

(5) 民族等

カタル人（アラブ系のバニ=ウトバ族が主）が総人口に占める割合は25%程度、アラブ人全体でも40%程度に過ぎない。パキスタン人（18%）、イラン人（14%）、インド人等の移民や出稼ぎ外国人労働者が多数居住している（以上数値は学習研究社資料、1992）。

(参考文献)

『国際情報大辞典』 1992 学習研究社

(6) 言語

公用語はアラビア語である。このほかに英語、ペルシア語も通じる。英語は、ビジネス及び公務のみに用いられている。

(参考文献)

『世界各国要覧 7訂版』 1993 東京書籍

The Europa World Yearbook 1994 Europa Publications

(7) 宗教

イスラム教徒が大半で、その中でも特に戒律の厳しいスンニ派ワッハーブ宗が70%を占める。シーア派は24%である。またキリスト教徒が6%を占めている（以上数値は中東経済研究所資料、1991）。

(参考文献)

『中東経済』 特別号 No.136 1991 中東経済研究所

(8) 文化

カタル人はそのほとんどがスンニ派、中でも戒律の厳しいワッハーブ宗に属するイスラム教徒であるため、日々の生活はコーランの定めに基づいて営まれており、イスラム教徒に課せられた5つの勤行が忠実に実践されている。

(参考文献)

『任国情報：カタル』 1991 国際協力事業団

『世界各国要覧 7訂版』 1993 東京書籍

(9) マス・メディア

カタルには25以上（Europa社資料、1994）の出版社があり、全アラブ諸国の新聞や雑誌が売られており、その他「The News Week」や「The Time」等の主な米国、英国の新聞、雑誌も手に入る。

情報省の検閲は厳しく、偏った思想や公序良俗に反するものの輸入、持込みは禁止されている。

(参考文献)

『任国情報：カタル』 1991 国際協力事業団

The Europa World Yearbook 1993,1994 Europa Publications

1) 新聞

カタルで発行されている新聞の発行部数は、1986年現在で人口1,000人当たり147部であり、88年時点では発刊されていた日刊紙は4紙、その他の新聞は6紙であった（以上数値はEuropa社資料、1993）。なお90年時点では主な日刊紙は5紙である。主要な地元紙は以下に示す通りである。

アル・アラブ	政治問題中心	アラビア語日刊紙	20,000部
アッラーヤ	一般記事、親日的	アラビア語日刊紙	25,000部
ガルフタイムズ	アッラーヤの姉妹版	英語日刊紙	15,000部

(以上数値は Europa 社資料、1994)

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1993,1994 Europa Publications

2) 放送

テレビは英語とアラビア語の国営放送がそれぞれ1局ある。アラビア語放送は15時から、英語放送は17時から放送されているが、サラート（礼拝）の時間になると中断される。放送内容はニュース、子供向け番組、ドラマ、映画、スポーツ中継などである（以上数値は Europa 社資料、1993）。なお国営カタル・テレビ放送局（Qatar Television Service）は8チャンネルある（以上数値は Europa 社資料、1994）。

テレビ台数は1988年で人口1,000人当たり400台（Europa 社資料、1993）、UNESCOの推計によると91年のラジオ受信者は19万5,000人、テレビ受信者は19万8,000人である（以上数値は Europa 社資料、1994）。

ラジオはアラビア語放送と英語のFM放送があり、ともに朝から放送されている。なお国営のカタル放送局（Qatar Broadcasting Service 略称：QBS）は、アラビア語、英語、フランス語、ウルドゥー語で放送されている。

米国のTVCN社は、1992年に28チャンネルの有線テレビ網建設契約を受注したが、第1期工事12チャンネル分は93年4月に完成が予定されていた（以上数値は共同通信社資料、1993）。

(参考文献)

『任国情報：カタル』 1991 国際協力事業団

『世界年鑑』 1993 共同通信社

The Europa World Yearbook 1993,1994 Europa Publications

表-3：経済指標 [カタール]

1) 主要経済指標の推移	年	(1991)	(1992)	(1993)
GDP (百万QR)	(注1)	24,289	N.A.	N.A.
一人当たりGNP (ドル)	(注2)	14,770	16,750	N.A.
実質GDP成長率 (%)	(注3)	-0.8	5.6	1.5a
消費者物価上昇率 (%)	(注1)	4.4	N.A.	N.A.
失業率 (%)		不明		
貿易収支 (10億ドル)		1.67	2.04	1.38a
輸出額 (fob)		3.21	3.84	3.13a
輸入額 (fob)		1.54	1.80	1.75a
主要輸出入相手国	(注3)	輸出 (1992年)	日本 (63.3%)	
		輸入 (1992年)	日本 (19.8%)	
経常収支 (百万QR)	(注3)	-100	-16	-478a
対外債務残高 (百万ドル)	(注3)	1,826	1,620	1,780a
債務返済比率 (%)		不明		
外貨準備高 (百万ドル)	(注3)	667.7	683.3	N.A.
2) 通貨	通貨単位：カタール・リアル (QR)			
(1994年11月末)	1ドル = 3.64075 カタール・リアル			
(注4)				
3) 会計年度	4月1日～3月31日			

(注) a : EIU推定値

b : 暫定値

出所 (注1) International Financial Statistics Yearbook 1994 IMF
 (注2) World Development Report 1993、1994 The World Bank
 (注3) Country Report : Bahrain, Qatar 4th quarter 1994 EIU
 (注4) 『東銀経済四季報』 冬号 1995 東京銀行

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

カタルは、一部の野菜と魚（種類は豊富でしかも安い）を除き、殆どの食料を輸入に頼っているが、たいていのものは妥当な値段で入手できる。郊外では野菜の冷室栽培を行っている。グリーンハウスの一方の壁に設けたフィルターに水を流し、もう一方の壁から大きなファンで室内の空気を吸い出すことによって、気化熱により冷えた空気を常に室内に送り込んでキュウリ、トマトその他を栽培している。

また、養羊や養鶏にも力を注いでいる。畜肉は牛を始め豊富に輸入されているが、イスラム教国であるので、豚肉は一切輸入、販売されていない。

レストランの料理は、やはり羊、鶏、牛肉が中心であり、豆、魚料理も豊富であるが、アラブ風、インド風料理が主流で香辛料が強い。ホブスと呼ばれる薄くて丸いパンのようなものに、肉、野菜をはさんだサンドウィッチのようなもの（シャワルマ）は安くて軽食にもってこいである。しかしそのほか洋食、タイ、フィリピンなどのレストラン、スナックも多く各国料理が競い合っているが、日本、韓国、中華料理はない。

(2) 主な食料品の出回り状況

スーパーマーケットが数多くあり、欧米諸国の食料品は整っているが、日本食料品を扱う店は少なく、一応手に入るが、品切れ状態が多く、いつ入荷するか判らず（醤油、味噌、豆腐等）、品揃えも限られている。

米は長粒米が主流であるが、エジプト、オーストラリア、米国産のヤポニカ種（短粒米）も常時売られている。

パンは専門店、スーパーで種類も豊富に売られている。

野菜はキュウリ、キャベツ、トマト、レタス、ピーマン、オクラ、なす、カボチャ、ジャガイモ、里いも、さつまいも、玉ねぎ、ねぎ、カリフラワー、しょうが、にんじん、にんにく、ホウレン草など種類も多く、安くて新鮮な物が一般的に購入でき、大根、白菜、もやしなどもスーパーで購入できるが、ヨーロッパからの輸入品で値段もやや高い。ゴボウ、しいも、レンコン、三ツ葉などは入手できない。

果実類もバナナ、柑橘類、リンゴなどは年間を通じて豊富に出回っており、季節によって、スイカ、メロン、イチゴ、梨、栗、柿、パイナップル、マンゴなどが世界各国から輸入されている。

缶詰、乾物類は豊富で、牛乳、乳製品なども種類が多く不自由しない。

牛肉、鶏肉、羊肉、鶏卵などは豊富で、肉類は頼めば薄くスライスもしてくれる。

魚介類はアジ、ハタ類、タイ、サワラ、サバ、エビ、イカ、カニなど種類も豊富で近海物が売られており、またヨーロッパから冷凍物の鮭、ニシンなどがある。（カタルではエビ資源保護の為、1～7月は禁漁期であるが近隣諸国から輸入している。）

調味料は塩、砂糖、各種食用油、ケチャップ、マヨネーズなど殆どの物はスー

パーで購入できるが、日本独特の調味料は前述通り数、種類に制限がある。

酒類はイスラム教国なので持ち込み、販売とも禁止されているが、在留許可証保有の外国人居留者に限ってリカーパーミット（酒類購入許可）が発行される。リカーパーミットの取得は英国大使館が代行しており、給与証明、日本大使館の推薦状、取引銀行発行の1,000リヤルの銀行小切手（帰国時返還）、手続き費用、写真パスポート、申請書を提出して身分証明カードを入手、販売店にて購入希望日を指定、毎月500リヤルを上限に購入できる。

たばこは種類も豊富で、一般に購入できる。

(3) 食料の入手

主なスーパーマーケットは以下の通りである。

センター	TEL 321790
フードセンター	TEL 422456
ファミリーフードセンター	TEL 425148
サラム・スタジオ	TEL 427432
各地区大型コープ	

日本食は味噌、醤油、酢、海苔、豆腐、ラーメン、マヨネーズ、カレールー、うどん／ソバ、ワサビ、嗜好品、けずり節、ソース、つゆの素などが不定期に入手できるが非常に高価である。

主な食料品の物価（1995年7月31日現在）

米	3～10リヤル/kg
牛肉	40リヤル/kg
鶏肉	11リヤル/kg
卵	8リヤル/10pieces pack
牛乳	3リヤル/litre
料理用油	6リヤル/litre
パン（一斤）	3リヤル/6slices
ミネラルウォーター	1リヤル/litre
キュウリ	3～8リヤル/kg
にんじん	6～8リヤル/kg
白菜	7～9リヤル/kg
大根	7～9リヤル/kg
じゃがいも	3～7リヤル/kg
オレンジ	5～8リヤル/kg
りんご	6～6.50リヤル/kg

1-2 食器、調理器具など

(1) 食器、調理器具などの入手

和食器以外はヨーロッパの物も含め、良質の物が豊富に出回っている。嗜好によっては日本料理用和食器を持参する人も居る。電化製品は240ボルトで、当地にも日本、欧米大手メーカーの店があり炊飯器まで購入でき、大体の物は入手が可能である。

(2) 日本から持参した方が良い食器・調理器具など

急須、丼、茶碗、お椀、塗り箸、茶托、重箱などの和食器。焼き網、巻きす、蒸器、ふきん、出刃包丁、柳刃包丁、すり鉢などの特殊な調理器具。

1-3 外 食

(1) 飲食店

日本、韓国、中華料理店はないが各種ファーストフードの店が宅配もしており、西欧諸国、インド、東南アジア料理のレストランが数多くある。しかしイスラム教国の一般には酒類はなく（一部ホテル内で許可のある外人のみ入れる特殊レストランを除く）またラマダン（断食月）に日中飲食店は開業しておらず、夜間のみ営業となる。

(2) その他の飲食店

アラブ、インド、パキスタン料理などのレストランは数多くあり、比較的安価に利用できる。

2. 衣 料

2-1 衣 料

(1) 一般事情

夏季の気温は日陰でも50度近くまで上昇することがあり、熱帯性気候のため夏物が主体である。しかし冬季は最低気温が10度程度まで下がることもありカーディガン、セーター類も必要である。また夏季でも室内はエアコンが効き過ぎている場合が多い。

衣料、衣料素材はヨーロッパ、アジアから多数輸入されているが、現地購買者の体格が良いため、小柄な女性は選択の範囲が狭くなる。

コートは厚手のものは必要ないが、ヨーロッパ旅行、冬季帰国などの場合に備え1着程度はあった方が便利である。

夏季におけるふだん着はできるだけ軽装の方が快適である。しかしイスラム教の戒律上 女性の極端な軽装、開放的な服装は差し控えるべきである。

男女とも和服を着る機会は少なく、特に持参する必要はない。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

男性/女性ともに素材、既製ともに豊富にあり仕立ても背広上下が英国製素材とも2万円見当で、女性ものも縫製費が2千5百円見当でワンピースができる。しかし注文の際の言語上の関係からある程度日本から持参することを薦める。

小児用衣類は豊富であるが デザイン、カラーが豊富ではなく、やはりある程度持参を薦める。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

とくにないが、一般的に注文服の方が既製服（欧米輸入物）より安い、仕立てはあまり期待出来ない。

(4) その他の留意点

年2回程度開催されるスーパー、商店の大型バーゲンセールでは通常価格の20～50%引きの値段で衣料、日用品が購入できる。

2-2 礼装

(1) パーティ

公式行事、大使館行事などでも男性は背広上下、女性はワンピース、ツーピース着用である。ロングドレスが1～2着があれば尚良いが、なくても困らない。

(2) 式 典

主に男性社会であり夫婦同伴は習慣的にないが服装はパーティに準ずる。

(3) その他の冠婚葬祭

特別な礼装はなくパーティに準ずる。

(4) その他の留意点

アラブ民族の服装は頭にオガールと呼ばれる白ベール（砂塵除け）それにコフィア（黒の鞭）を巻き、トウブと呼ばれる白の胞衣（足首までの長衣）を着ており、これが普段、礼装を兼ねている。式典の時にはそのうえに薄いカフターン（コート）を羽織る程度であるから礼服は必要がない。黒、紺の背広で充分である。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

クリーニング店は数多くあるが、スーパー、ホテルの店が信用できる。家庭における洗濯機材は現地調達でき豊富である。

(2) 仕立て、修繕

テーラーが多く、仕立ても標準並であり、値段も500～1,000リヤル程度である。

(3) 保管

ナフタリン、保管袋などは豊富にある。

3. 住 宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

外国人向け賃貸住宅は独立コンパウンド形式が大部分で、ここ数年間に外国人向け賃貸住宅の建設が増加している。集合独立コンパウンド（プール、テニスコートなど完備）に居住している人が多いが、市内の独立家屋を借りしている人もある。しかしメンテナンス、給水、警備の面からは集合住宅の利用が安全である。

3-2 ホテル事情

極めて良好で高級ホテルとしてはシェラトン・ドーハ、シェラトン・ゴルフ、ラマダ、ソフィテルなどがあり長期滞在も可能である。

ドーハ・シェラトンホテル

電 話：854444

住 所：P.O.Box 6000, Doha

宿泊料：シングル 350 リヤル ダブル 450 リヤル

ゴルフ・シェラトンホテル

電 話：432432

住 所：P.O.Box 1911, Doha

宿泊料：シングル 300 リヤル ダブル 400 リヤル

ラマダホテル

電 話：417417

住 所：P.O.Box 1768, Doha

宿泊料：シングル 300 リヤル ダブル 350 リヤル

ソフィテルホテル

電 話：435222

住 所：P.O.Box 7566, Doha

宿泊料：シングル 300 リヤル ダブル 350 リヤル

オアシスホテル

電 話：424424

住 所：P.O.Box 712, Doha

宿泊料：シングル 250 リヤル ダブル 300 リヤル

3-3 住宅の探し方

現地英字新聞、イエローページから不動産業者を選ぶか、大使館または在留邦人と相談の上仲介業者を選ぶ。（参考：APOLLO ENTERPRISES, 420910—英国人仲介業者、大使館員利用 ジャド、ダルウイッシュー日本人学校が利用）

原則的には家賃一年分前納で、契約は一年以上ではあるが業者との話し合いで分割も可能である。契約にはUN FURNISH（家具が全然ついて無く建物だけの契約）とFURNISH（必要最低限の家具、家財付きの契約）、ALL FURNISH（家具、家財など生活上必要なものが総て整っている契約）の場合があるため、日本人に慣れた業者と交渉した方が自由が利く。契約は一度署名すると取り消しが難しく、追加要求、変更契約には応じない向きが多く、署名後の契約変更はコストが掛かり危険で

ある。外見に囚われず、住環境、給水、配電、メンテナンスなどに細心の注意を払い入居後に問題のないようにすべきである。在留邦人の意見聴取、優良不動産業者選択が不可欠である。

3-4 住宅の選択上の留意点

市の周辺部では一見立派な住宅街でも電話の設置に時間が掛かったり、水道、電気配管が完全でなかったり、買い物に不便であったりする。一方、既存の住宅は厳しい自然条件と維持管理の不行届きから老朽化がきわめて早く、築後4～5年の家屋でも入居後、さまざまなトラブルが発生することが多い。したがって、家賃、広さ、環境などすべてを満足させる家を確保することは、決して容易ではない。

また、独立一軒家よりも、入居後メンテナンスの行き届いたコンパウンドの方が無難である。入居前に必ず、貯水タンクの機能、電気、水回り、トイレ、バスなどの給排水、ガス漏れ、ドア、窓の施錠、日当たり、衛生状況などチェックリストを用意して慎重に選ぶべきである。

3-5 住宅の契約

家賃は2ベッドルームから3ベッドルーム見当でFURNISHで1万リヤル程度でALL FURNISHであれば2～3千リヤル程度高い。契約条件は2年契約、一年分前払いが習慣であるが、契約、交渉によっては1年契約、半年分前払いなど可能である。契約は一度署名すると変更が難しく、時により2～3カ月分の家賃相当額が要求される。特に家具付きの場合は家具の質、種類その他を細かく打ち合わせるべきである。(家具、家電製品ともに市場に豊富であり、好みも指定できる。)水道、電気代などは家主負担とすることで不当に高額を要求されることがあるので留意すべきである。通常、家主直接ではなく不動産仲介業者が契約を代行しており、電気、水道の手続きも代行してくれる。

3-6 電気、ガス、水道などの手続と管理

不動産仲介業者が電気、水道の手続きも代行してくれる。ケーブルテレビがあり電話の設置と共に電話局に申し込めば米国CNN, 英国BBC, フランス、香港スターTV、その他衛星TVなどが受信できる。(日本からの送信は短波ラジオのみ)

電話の設置は地域によっては時間が掛かるがコンパウンド居住の場合は比較的早い。(居留許可取得後でないと電話申し込みが出来ず、通常家主または仲介業者名義で設置するほうが便利である。)

3-7 その他

該当情報なし。

4. 医 療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

カタル特有の風土病はない。国際保健規則で定められた基本的予防接種以外は必要ないが、補足的予防接種として、B型肝炎、破傷風は赴任条件により医師との相談を薦める。

(2) その他の準備

欧米諸国の医薬品が豊富で無税で輸入されているが、日本人の体質に合わないものもあり、救急箱にあるような風邪薬、抗生物質、目薬、虫さされ用塗り薬、消毒液、下痢止め（正露丸などホルマリン製薬）、整腸剤など常備薬としているもの、また体温計、氷嚢（アイスノンなど）があれば便利である。

眼鏡は日欧米のレンズ、フレームなど豊富ではあるが、検眼する場合には微妙な表現が必要なため、現在使用中のものを持参し、同じものを作るかまたはスペアを持参することを薦める。コンタクトレンズも同様。

歯科治療も歯科医が多く欧米医師も常駐しているが、眼科と同様に微妙な表現が必要になるため赴任前治療を薦める。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

カタルには国営のヘルスケアセンター（保健所）が各地区にあり、また最新の設備を誇る国立ハマド総合病院がある。ハマド総合病院の医療水準、医療機器は非常に高いが、中心になる欧米医師たちの滞在赴任（定着化）期間が短く、また看護学校の不備などがあり看護婦（夫）の水準が低いために医療に当たりはずれがあることは否めない。

国営医療施設で診療、治療を受ける限りは外国人も含めて無料である。私立診療所、病院もあるが入院設備は無く費用も掛かる。複雑な病気は先進国で治療を受けることが望ましく、慢性の持病がある場合などもできる限り治療を日本で済ませたうえで赴任することが望ましい。また英文処方箋の持参が必要である。ただし通常の病気治療については不安を抱く必要はない。

日本人の利用する一般開業医（有料）

内科 DOHA CLINIC TEL 327300~2

歯科 FAMILY DENTAL CLINIC TEL 442924 / 411007

そのほか年に1~2回、日本より巡回医師団の訪問診療があり、各科診療相談が行われる。（地元医師に対する英文処方箋、意見書も入手可能）JICA 専門家及び同伴家族に対してはJICA 海外共済会によるEUROP ASSISTANCEとの24時間緊急医療アシスタンスがある。（派遣専門家手引参照）

(2) 緊急時の対応と措置

電話999で救急車の呼び出しができ、夜間に当番薬局が24時間開業している。一部診療所とハマド総合病院救急窓口は24時間開いている。私営病院と国立病院の連絡も良く患者の搬送なども行われている。前項で述べたように、海外共済会のシステム利用も考慮すべきである。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

欧米製医薬品が豊富にあるが、人によっては強すぎたり、英語以外のレッテルで不明確な場合もあり、使いたない風邪薬、整腸剤、抗生物質、消毒薬、消炎鎮痛薬など、特に幼児、小児用の常用の薬は持参した方がよい。氷嚢、水枕は販売していないので持参した方がよい。(共済会支給携行医療品セット程度)

(2) 任国で調達できる医薬品

夜間は法律により2軒の薬局が交替で営業しているし、殆どの医薬品は購入可能。しかし薬量も異なり、自分にあった薬を見付けるのはなかなか難しい。

(3) 任国で調達できる衛生用品

生理用品、ナプキンなどは入手可能。バンドエイド、綿棒、ベビーケア用品、石鹸、ハンドクリーム、ローションなどは多種揃っている。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

出産に関しては、日本人はカタルの医療に対する不安、言語の問題もあり、一時帰国する人が多い。欧米人はカタルで出産している人が多く、最近では日本人もカタルで出産する人が見られる。妊娠した場合、国立病院では早期検査は受け付けてもらえず、私立診療所を使用するか、薬局で試薬を購入、自己確認をして、検査をしてもらえる時期を待つ。国立の産婦人科(WOMEN'S HOSPITAL)があり、設備も整っているがアラブ人との体格の差、乳幼児死亡率の高さから不安も残るが、欧米人には信頼されている。

(2) 出産後の対応

カタルでは出産後早期退院が原則であるが、医師の診断による。乳児の予防接種はカタルのシステムが確立されており、無料で受けることができる。国立病院の他に小児科専門医療センター、一般開業医も多い。

(3) 育 児

育児用品はカタルで殆どのものが入手可能である。ミルク、ベビーフード、紙オムツ、哺乳瓶、ベビーパウダーなど(JOHNSON & JOHNSON、P & G、その他欧米品)は手に入る。ミルクは日本の物と味がちがうので、受け付けない乳児もいる。乳幼児用のキャリアー(乳母車)、ベッド、衣料、玩具も豊富である。

4-5 手 術

(1) 任国で可能な手術

ハマド国立総合病院では、かなり高度な手術(頭部、心臓など)も行われているが、言語の問題もあり、緊急の場合でなければ日本へ帰国して実施したほうが無難である。

(2) 手術設備の状況

欧米の一流病院に劣らない最新の設備が完備されている上、入院についても問題はない。

(3) その他の留意点

手術の際に問題になるのはエイズ感染などである。外国人は在留許可取得時にエ

イズを含む検診を受けることが義務付けられており国営診療機関に於いて受診している。現在のところ、輸血によるエイズ感染は報告されていない。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

カタルに赴任して、しばらくは下痢に悩まされる人がいるが大部分は水質の変化によるもので正露丸などで回復する。

(2) 風土病、伝染病

当地には特定風土病、伝染病は報告されて居ない。(WHO レポート)

(3) 有害動物、病虫害

特にないが非常に希ではあるが郊外でサソリ、蛇が棲息している。野良犬も数が少なく狂犬病の報告はない。鼠、ゴキブリ、蟻、ハエもそれほど多くなく、ドーハ市内は下水道が完備されており、衛生局に頼めば薬剤散布に来てくれるし(無料)、スーパーなどで市販されている薬剤散布、私営の衛生社との薬剤散布契約も数社ある。庭の雑草は定期的に刈り蚊の発生を防ぐことも必要である。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

ドーハ市内には日本、イタリア、イギリス製の海水蒸留設備が並び、その他大型発電機の冷却用海水の蒸留水、地下伏流水などで水道を賄っており水道網は完備されている。水道の蛇口から採取した水を日本で分析した結果、カルシウム分は極端に少ないが非常に清潔であるとの結果が出たと報告されている。しかし個別家庭の水タンク、水道管に問題があり、灼熱で温度が上がり雑菌の繁殖が考えられるので、煮沸するか市販のミネラルウォーター(非常に手頃な値段)を使用することが望ましい。

(2) 濾過器の入手

水濾過器も各種あり各スーパー、日用品店で購入でき、洗浄水のためにも設置を薦める。日本製品の持ち込みはフィルターの補給が不可能なため薦められない。

(3) その他の留意点

水タンクの定期清掃、フタの固定化が大切である。魚や肉は出来るだけ火を通し、生野菜は十分に水洗いをしたほうが良い。夏、炎天下の水泳、砂漠ドライブは熱射病、日射病のもとであり、避けたほうが良いし、できるだけ水分の補給を行うこと。不衛生な店での飲食はできるだけ避け、清涼飲料水も氷の使用は拒否し、缶や瓶から直接飲むこと。食料品、特に冷凍、冷蔵食品は製造日を確認、古いものは避ける。(保健所、衛生局の定期検査が厳しい。特に日本からの食料品は古いものが多いので注意を要する。)

5. 教 育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

カタルの学校制度は6、3、3、4制で、男女別学である。1977年にカタル国立大学が開校され、教育、経済、理学、人文社会、法学、イスラム学等の学部を有している。

教育は義務教育制ではないが、無償である。また欧米には国の全額補助金制度及び私費留学で多数のカタル人高校生、大学生が留学している。教育は外国人居留者にも同権であるが、各国外国人学校が私立として各国大使館又は居留民会によって運営されている。

イギリス、アメリカ、フランス、インド、パキスタン、スリ・ランカ、その他アラブ系私立学校も数校ある。

(2) 日本人学校

1979年4月 カタル日本人会により設立

所在地：JBKコンパウンド内 P.O.Box 7177 Doha 電話 684234 FAX 683174
教員は文部省からの派遣教員6名 委託英会話講師2名 アラブ語講師1名
生徒数は小学生のみで現在は16名程度である。

(3) 現地校、外国人学校

現地校は多数あるが、その他欧米系、アジア系の外国人学校が7～8校ある。しかし授業について行けるだけの、語学能力が必要である。

(4) 幼稚園

アラブ系他多数の幼稚園、保育所があるが、特にイギリス人経営の幼稚園2校に日本人の幼稚園児は通園している。また保育所はイギリス人経営の保育所があり、利用している日本人もいる。

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

入学手続は、簡単な面接および家庭調査表などの記入である。必要書類は在学証明書、指導要録の写し、健康診断表、歯科検査表、教科書給与証明書である。

入学金 900リヤル

授業料 月額900リヤル——2子目から700リヤル

通学手段 スクールバス 月額100リヤル

長期休校日 夏期休暇 7月16日～8月31日 冬期休暇 12月29日～1月6日

春期休暇 3月21日～4月10日

(2) 現地校、外国人学校

参考資料 入学金 1,000～2,000リヤル

授業料 年額9,000～2万リヤル

通学手段 スクールバス、自家用車

(3) 幼稚園

参考資料	入学金	100 リヤル
	授業料	500 リヤル
	通学手段	自家用車が通例

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

国立図書館の他に数カ所ある。その他米、英カルチャセンターなどにある。

(2) スポーツ施設

国立競技場が数カ所あり、テニス、サッカーなどの世界選手権が毎年開催、一般の使用も可能である。また外人向け集合住宅地（コンパウンド）には各コンパウンドごとにプール、テニスコートなどの施設が完備されている。ホテル、私立スポーツクラブなどの会員制クラブも多数ある。

(3) その他

国立劇場、国立歴史記念館、水族館、ヨットハーバー

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

英語その他語学研修所は多数あり、英語の個人レッスンも可能である。

(2) 通信教育

日本からの通信教育教材入手は可能である。

(3) 携行した方がよい家庭用教材

日本語の参考書、辞書、問題集などは現地入手は不可能である。文房具は特殊なものを除いて入手できる。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

カタルでの使用人は外国人（アジア人）となる。入国審査が非常に厳しく外国人個人が外国から使用人を同伴、呼び寄せすることは、特別な職業に従事する者に限られており、査証手続きの面で殆ど不可能である。しかし既に在留許可、居住権を取得して居る労働者雇用はスポンサー変更手続き等で可能である。この場合雇用者は雇用契約終了時に労働者を出国させる義務があり、また年次休暇、帰国時の費用も雇用者が負担しなければならない。現地人材派遣業者経由の雇用の方法もある。労働者の人権を尊重し、人種的偏見のないように心がけるよう留意すべきである。（希ではあるが警察に訴えられ慰謝料などの支払いを命ぜられた外国人がいる。）

6-2 運転手

(1) 雇 用

個人で運転手を雇っている日本人は希である。

給与は、月額1,000～1,500リヤル

留意点は安全運転を励行させる（事故の損害保証は雇用者である。）

(2) 日常管理

定期的に車の点検を励行させる。特に炎天下の為、バッテリー液の補充を忘れさせないようにさせる。

(3) 教育指導

一般的にハイスピード走行が通例であり、マナーも悪いので、安全運行の励行を繰り返し指導する。

(4) その他の留意点

カタルの運転免許証、在留許可を確認、パスポートと共にコピーを保管する。給油、整備代金の支払いは必ず雇用者が行うか、領収書を確認する。人身事故、特にカタル人、女性に対する事故は、大変面倒になるし、運転手が逃亡、行方不明になることがあるので注意する。

6-3 メイド／サーバント

(1) 仕事の人数と種類

カタル人家庭は通常複数のメイド、サーバントを雇用している。日本人では常時サーバントを雇用して居る人は少なく、通い契約でベビーシッター、メイド、サーバントを雇っている人はいる。

(2) 雇 用

不法雇用は雇用者も罰せられる（含む国外退去、入獄）ので雇用に際しては注意すること。居留許可パスポートを確認、コピーを保管する。

給与（ハウスマイドの場合） 常時雇用の場合は月額700～1,200リヤル

（食事付き、交通費別）

(3) 日常管理

衛生観念、倫理観念に違いもあるので留意する必要がある。

鍵はメイド／サーバントを解雇したときには必ず交換しないと、非常に危険である。（手引による盗難が発生している。）

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

一戸建て住宅が通例なため、除草、庭の管理などで日本人も時間制で雇用している向きが多い。コンパウンド居住者は契約の中に庭の管理を別枠で頼む事も可能である。給与は一時間 20 リヤル（週 3 回で月額 250 リヤル）である。

ガードマンの雇用は、日本人個人では例がなく、コンパウンド出入口には常駐している。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

鉄道はない。バスは近郊、長距離ともに路線バスがあるが、日本人はあまり利用していない。

タクシーは数多く安価で便利ではあるが、カタルでは正式な道路名、番地が普及しておらず、目標を完全に把握して居ないと利用は難しい。また女性のタクシー利用、特に夜間の利用は危険である。タクシーは登録免許制で、料金はメーター制である。オレンジと白のツートンカラーで屋根にTAXIと表示がある。

タクシー代 2.0リヤル/km (7:00~19:00) 3.0リヤル/km (19:00~7:00)
その他若干割高ではあるがレンタカー会社、ハイヤーがあり特にドーハリムジンは一般的に利用されている。電話で呼べ、運転手も英語ができ、また車両数も多く快適である。

(2) 自家用車を利用する場合

当地は日本と異なり右側走行であり、交差点は殆どラウンドアバウトと呼ばれるロータリー方式で進入が難しく、またドーハ市内は大部分80km走行で一部100km走行部分もあり、郊外は140km走行部分もあり、道路は完備しているが運転マナーが悪いので慣れないうちは細心の注意が必要である。

(3) レンタカーなどを利用する場合

レンタカー会社は数多くあり、各ホテルにも出張所がある。

大手としては

AVIS RENT-A-CAR	TEL 447766
BUDGET RENT-A-CAR	TEL 419500
NATIONAL MOTOR HIRE SERVICE	TEL 413190

レンタカー料金は業者によって異なり、車種も各種あるが、保険、整備状況に注意して業者を選ぶ必要がある。

(4) 道路地図

市内各書店で数種類販売されている。しかし改訂が進んでおらず、幹線道路、主なランドマーク以外の詳細は不詳である。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

交通事故を起こした場合、事故発生地点か、たとえ交通渋滞の基になっても事故車を動かさずに警察を呼び(TEL 999)現場検証を受け、別途事故証明を受領する。車を移動させると保険金の支払いはない。自分が被害者であっても加害者であっても当事者示談はしてはならない。カタルではかなりのスピードを出しているうえに、運転マナー、歩行者マナーが悪く、横断歩道も数箇所しかなく、また車両間隔はある程度あけて置かないと危険である。非常に接近運転が常識であり、1年に一度の車検は義務付けられているが整備不良車両が多く、これらがかなりのスピードで走っているので自分が安全運転をしているからといって安心はできない。方向指示器の使用は希で、いきなり割り込み、車線変更してくるのでシートベルト

は必ず着用し、周囲に最大の注意を払い、特に郊外走行、砂漠地帯走行の場合、充分に車両点検、整備を怠らず、簡単な救急箱、飲料水は常備の必要がある。

(2) 救急病院

各所にある医療センターは応急処置程度で、救急救命センターはハマド総合病院 (TEL 446446) だけである。救急車は (TEL 999) 短時間に現場到着が見込まれる。

(3) 盗 難

カタルでの盗難犯罪件数は非常に少なく、安全と言えるが、犯罪を誘発しないためにも駐車の際は貴重品を置かないこと、特にスーク (市場) 周辺では駐車場以外の路肩などに車を放置すべきではない。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

標識、その他日本と大差ないが、カタルは右側通行であり、左ハンドル車が原則である。イギリスによく見られるラウンドアバウト (ロータリー方式) が交差点の大部分で、左折の場合左端 (中心)、右折の場合右端 (外側) を徐行で走ることが規則であるが、違反車が多く接触事故率が高い。また高速運転に慣れ、思わぬスピード違反で取り締まり (パトカー、写真判定) で罰金の例が増加している。駐車違反の取り締まりもかなり厳しく、レッカー移動、罰金は例が多い。

(2) 対処方法

違反はキップを切られ、警察出頭または逮捕になる。

7-4 車の修理

(1) 部 品

車のディーラーが修理工場を併営しており、特別なものを除いて、必要部品は入手可能であり、その他のオートショップもかなりあり、日本製乗用車の部品は豊富である。

(2) 修理、車検

各メーカーの整備工場があり、修理内容も総体的に信用できる。このほか町中の修理工場、ガソリンスタンド併業など数多い。

8. 通 信

8-1 電 話

(1) 一般事情

電話事業は国営のQ-TEL (QATAR PUBLIC TELECOMMUNICATION CORP.) が運営し電話事情は非常に良く殆どの家庭に普及している。自動車電話、携帯移動電話GSM (広域対応方式)、ポケベルも普及している。なお、在留許可が取れないと、電話を設置することができないが、急ぐ場合コンパウンド居住者、大手不動産業者は自己企業名で電話を設置してくれる事もできる。

生活に必要な電話番号は以下の通りである。

警察、消防、救急車	999
電話番号案内	180
緊急電話 (電気)	435703
(水道)	494290

(2) 国内電話

国内電話の通話料金は無料であるが、公衆電話利用の場合テレホンカード利用が原則で1通話分の料金が取られる。局番は2桁その後に4桁番号で6桁になっている。

(3) 国際電話

主要各国との通話はダイヤル直通であり、日本にかける場合、カントリーコード「081」の後に日本のエリア番号から最初の「0」を取った番号、続いて相手の局番、番号を回せば良い。(例：JICA 081-3-3346-5180)

ファクシミリも同じ要領で送信できる。

日本との通話料金は通常1分間10リヤル、休日、夜間料金7.5リヤルである。

日本からダイヤル通話でカタールと通話するときはカタールの国番号974の後6桁番号を続ける。

8-2 電 信

(1) ファクシミリ

高速マシンを使えば、電話より便利で原稿が自宅からそのまま格安に送信できる。

(2) テレックス

アラビア語、英語 (含むローマ字)、フランス語に対応する機械はある。

(3) 電 報

Q-TEL及び主たる郵便局で受け付けるが、アラブ語、英語以外は受け付けない。その他データ通信、電子メールサービスも始まった。

8-3 郵 便

(1) 一般事情

郵便は住居表示が完備されていないので宅配はなく、主要郵便局、大体が中央局に私書箱を契約 (有料) する。切手は郵便局、ホテル、書店などで販売されており、ポストも市内各所にある。

営業時間は	一般郵便局	7:30~12:00	16:00~18:00
	ドーハ国際空港局	24時間	

料金は	日本向け絵葉書	1.5リヤル
	エアメール	1リヤル
	封書 10g	2リヤル

日本とカタール間の航空郵便は通常4日～1週間程度でつく。郵便小包は10kgまでで、郵便局で箱を買うパーセルサービスも普及している。船便は、日本との直接船便が無く数カ月を要する。カタール着郵便に付いては郵便検閲制度でイスラムの教理に反するような裸像、ヌード写真、関連雑誌、ビデオ等は禁止になっており、通常ビデオも検査の対象になる。また食料品の一部（酒類、豚肉関係）は輸入禁止である。

その他、郵政省には関係ないが民間業者FEDEREX, DHL, COMODORなどの世界的なネットワークを持つ宅配業者が営業しており、緊急な書類、荷物を早く送りたいなら料金は高価であるが日本には翌日到着サービスをしている。日本からのサービスも同様に宅配（荷受人住所）まで行っている。この場合受取人住所または電話番号を明示する必要がある。

(2) 課 税

カタールの輸入関税は4%と低く、私物（Personal Effects）は無税か通関手数料のみであるが、通関の為の日数が4～5日かかる。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

『ガルフタイムス』 唯一の英語日刊新聞

『アッラーヤ』 ガルフタイムスと姉妹版のアラブ語一般日刊紙

『アル・アラブ』 政治問題中心のアラビア語日刊紙

その他『アル・シャルク』などのアラビア語日刊紙、及び隣国の英語、アラブ語日刊紙が1～2リヤルで書店、路上で販売されている。

(2) 本邦日刊紙

OCS ロンドン経由でOCS ドーハ（電話 363611 FAX 363610）が日経、朝日、スポーツ紙の国際衛星版を大体一日遅れで配達しているが、申し込みはロンドンまたは日本経由で3カ月前払いが原則である。

(3) 欧米紙

主立った欧米紙は同日または一日遅れで書店、スーパー、ホテルで入手可能である。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

QBS (QATAR BROADCASTING SERVICE 国営) がアラブ語放送、FMで英語放送を早朝から終日流している。その他近隣諸国の中波、FM放送が受信できる。

(2) ラジオジャパン

スリランカ中継で一日4回NHKの短波放送を受信できるが、非常に聞きづらい日もある。

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

VOA, BBC, VATICANO などの中波、短波放送が受信可能である。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

QTV (国営 QATAR TELEVISION) がアラブ語を終日、英語チャンネルは半日程度放映している。放送内容は英語の場合ニュース、ドラマ、スポーツそして子供番組が主で独自取材のほかABC, BBC、フランス国営との提携番組も多い。

(2) テレビ受信

テレビのカラー受信方式はPALシステムで日本からTVセットを持参しても受信できない。有料ケーブルTVはQ-TEL (電信電話公社) が有料でケーブルTVを放映しており、普及率も高くCNN, BBC, STARなど欧米系及び近隣諸国TVが基本契約で、その他契約により欧米系ドラマ、マンガ番組も買うことができる。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画・演劇

(1) 映画館

常設映画館は5館ほどあり、主としてインド映画をアラブ語サブタイトルで上映、欧米映画も常時上映館がある。日本映画は不定期に日本人会主催で年1～2回の鑑賞会がある。

(2) 劇場

国立劇場、ホテル、クラブなどで時々欧米、インドなど外国の劇団による演劇、舞踊、音楽、及びカタル国立舞踊団による民族音楽、舞踊が催される。

10-2 出版・書籍

(1) 一般事情

書店ではカタルで発行されている『アル・アハド』『アル・サクル』を始め全アラブ諸国の新聞、雑誌が販売されている。また欧米諸国の書物、雑誌、新聞も販売されているが検閲が厳しく宗教上好ましくない写真、記事は削除、黒塗りされている。

(2) 書店

市内に書店は数多くあり欧米書取扱店としては、FAMILY BOOKSHOP, GULF TIMES BOOKSHOP, ARABIAN BOOKSHOP などがあり種類も豊富である。また一部スーパーでも外国雑誌、新聞が購入できる。

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

ブリティッシュ・カウンシルで英語、アラビア語、フランス文化センターでフランス語、アラビア語、アメリカ文化センターでTOEFL受験用英語のレッスンを受講できる。このほか教育省付属のLANGUAGE INSTITUTEがあり、政府系機関職員および外交官の為のアラビア語、英語、フランス語の講習が行われている。

ちなみにブリティッシュ・カウンシルの場合、英語クラスは8段階に別れており、週2～3回授業で10週間分で900リヤル程度である。

(2) 家庭教師

英語の場合は英国人、アラビア語はエジプト人、パレスチナ人などに個人教授を頼むことができる。各文化センター紹介、掲示板、または日本人同士の紹介で英語の個人レッスンを受けている日本人もいるが授業料は一時間当たり100～150リヤルが相場のようなのである。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

国立劇場、図書館の他に国立博物館があり、イスラム近代建築の白塗りの建物でカタルの歴史、文化についての資料が展示、収納されており、付属水族館には沿海の魚類が飼育されている。付属民族博物館はカタル人の生活の場の一軒家をそのまま博物館にしてある。

カタル動物園は郊外にあり、珍種はいないが園内の造作が日本と違い異なった雰囲気をもっている。

ドーハ市内から北西約 50 キロメートルの所に「アラビアオリックス」というカタールにしかない動物が政府の管理のもと飼育されている公園があるが、入園には農業開発局の許可が必要である。

(2) 日本・任国友好協会などの有無と活動の内容

1984年4月、首長の訪日を機に設立された日本・カタール合同委員会があり、85年ドーハ開催後は3年ごとに、東京、ドーハと交互開催され、最近では94年に東京で開催されている。また湾岸諸国と日本の経済閣僚会議も94年末に開催、カタールからもエネルギー工業大臣始め主要財界人が出席した。(以上友好協会はあるが、在留邦人には関係なく、活動詳細は報告されていない。) また、種々なスポーツ選手来訪、文化使節来訪などが不定期ではあるが交流がなされている。

また、カタールには日本人会があり、入会には年会費が必要である。

(3) その他

カタール国際展示場(国際見本市会場)が常設されており、各国の産品展示会やカタール産品の展示即売会なども行われている。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

機材、フィルム共に豊富にあり、日本国内価格よりも安く手に入る。現像も一時間で現像できる店も多く、また機材の修理、補修も可能である。現像は絵葉書サイズで10円~15円見当で、そのまま絵葉書として投函できる。

(2) ビデオセット

当地のTVシステムはPAL方式なので、日本から持参の場合再生が難しい。少なくともPAL,NTSC両方式に対応するものが望ましい。写真機材と同様に現地調達の種類も多く可能であり、かなり安い。

レンタルビデオの店及び販売店は数多くあり、映画ビデオのレンタルが盛んである。欧米のものが多く最新の物も多いが日本のものはない。日本からビデオを送付する際は英語で内容を明示すること、また大量に送ると検閲のための時間が23週間程度かかる。

(3) ミュージックテープ

ビデオと同じく扱い店は数多くあり欧米、アラブの音楽が主である。特にアラブ独特のウード(琵琶に似ている)音楽は土産にも良い。

10-6 音楽鑑賞、演奏会、民族音楽

(1) 音楽会、コンサート

アラブ音楽の演奏会は各所で行われており、欧米音楽は各国文化センターなどの主催で使節団来訪があり、ホテル、クラブ、国営劇場などで鑑賞会が開催されている。

(2) コーラス、演奏グループ

地元の同好会が各種あり発表会も行われているが日本人グループはない。

(3) ピアノなど

現地での購入は可能である。家庭教師も欧米人に多く日本人子弟も習っている。キーボードは手軽で各種入手可能である。

- (4) レコード
販売店が数多くあり欧米のものも多い。
- (5) 民族音楽
カタル独特のものと言うよりアラブ音楽が盛んでウード(琵琶)やヴァイオリン独特のドラムを使った、独特な旋律のものが演奏されている。
- (6) その他の楽器
該当情報なし。

10-7 手芸、絵画、美術工芸

- (1) 手 芸
民族衣装に手芸品や刺繍が多く取り入れられており、専門店も多く刺繍材料、毛糸などは豊富にあるが、かぎ針、編み棒など特殊なものは数が少ない。
- (2) 絵画、美術工芸
歴史が浅い国なのでこの国特有のものは少ないがアラブ各国の古美術品や現代美術品など、特に絨毯、アラビア模様の刺繍品などは多い。値段も日本に比べて遥かに安く日本人も収集している(しかし模造品も多い)。

10-8 趣 味

- (1) 園 芸
日本から、シソ、三ツ葉、ニラ、春菊、もやし、かいわれなどの種を持ち込み栽培している人もいる。種類によっては、農業資材店で現地調達が可能である。鑑賞用植物は種類も豊富であり、多数店舗が取り扱っている。
- (2) 釣 り
鑑賞用魚鳥類は数多く、取り扱い店も豊富。釣りも盛んで魚種も豊富である。基本的な道具はスポーツ店で扱っている。

10-9 娯楽、遊戯など

- (1) 娯楽、遊戯、ゲーム
日本人会中心に各種スポーツ同好会があり、定期的に競技会もある。その他海や砂丘、奇岩地帯ピクニック、化石、サンドロース、石器探しも楽しめる。ビリヤード、麻雀、手芸、ブリッジなどの屋内遊戯、プールサイドバーベキューなども盛んである。
子供向けにはアラジンランド(総合プレイランド)がある。またラクダ、乗馬などの施設もある。
- (2) 芸能興業
年に何回か民族郷土芸能、サーカスなどの興業がある。

10-10 スポーツ

- (1) ゴルフ
砂ゴルフではあるが、ゴルフ場が2カ所ほどあり、日本人会では同好会が月例コンペなどを開いている。その他に現在建設中の本格的なゴルフ場もある。
- (2) テニス
市内には設備の整ったテニスコートを持つスポーツクラブが多数あり、各コンパウンドにもコートが整備されているところが多い。毎年1月にはワールドカップ、

カタルオープンが催され、世界のトッププレイヤー達が参集する。このコートも一般に解放されており、テニス教室なども盛んで日本人会で年一回テニス大会を開催している。

(3) 水 泳

大体のコンバウンドにはプールがあり、4月～11月頃までは水泳可能な季節である。その他スポーツクラブ、ホテルなどのメンバー制クラブも多い。海水浴も盛んで、半島のため水泳可能ビーチも多く、海浜にあるリゾートホテルには、ヨット、ウインドサーフィン、モーターボート、水上スキーなどの海浜レジャー設備も完備している。

(4) その他のスポーツ、用具、ウェア

サッカー競技場は各所にあり、ワールドサッカー、アジア予選(日本からも参加)開催、その他各種行事が行われており、一般にも普及している。

ボーリング場は3カ所ありいずれも会員制ではあるが、日本人会も毎年大会を開催している。

各種スポーツ、レジャー用品は大型モーターボートを含めて、大部分のものがカタルにて入手可能である。

(5) スポーツクラブなど

ドーハクラブ、ファルコンクラブをはじめ設備の整ったクラブが多数あり、その他にも各ホテルがスポーツクラブを運営している。入会金、設備利用費は非常に幅があり一概には言えない。

(例 ラマダホテル 家族入会金1,500リヤル、年会費3,000リヤル)

10-11 子供の遊び

子供は大切にされておりファミリーのみ入園可能な公園、アミューズメントセンター(アラジンランド)などもあり、日本人間の交流も盛んである。子供用玩具、乗物などは殆ど入手可能である。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

市中銀行数行が日本の市中銀行とコルレス契約をもっているが、大使館関係は日本に支店のある英国系スタンダードチャータード銀行を利用している。日本からの受け入れ口座として外貨口座（US\$）とATM、小切手も使えるリヤル口座が必要である。（特に後述酒類購入、家賃前納には小切手が必要となる。）帰国の際は書面で口座閉鎖の通告をする（義務ではない）。特にリッカーパーミット保証金などの返還など入金が帰国後に予定される場合は要注意である。

11-2 コンピュータ

該当情報なし。

11-3 美容院・理髪店

美容院はホテル内、市内に多くある。美容師も各国から来ており、予約制の所もある。（参考例：カット料金30～100リヤル、パーマ料金120～200リヤル）

理髪店はホテル内、市内に多くあり、料金は10～70リヤルと幅がある。

化粧品、シャンプー、リンス、整髪剤など大体のものは欧米製品がある。しかし各社製品共に日本人向けではなく、種類も少ない。選択肢が少ないので、常用品がすべてあるとは限らない。

12. 観 光

12-1 地方観光上の留意点

カタルの国土面積は1万1,427平方キロで日本の100分の3程度、秋田県とほぼ同面積である。また南北が180キロ、東西80キロ程度である。一日あればカタルの端から端までドライブ出来る。

しかし案内標識の不備、公共交通機関の不備など考慮に入れておくと同時に、地方では英語は殆ど通用せず、ドライブインなどの店舗も少なく薦められない。カタルでは、王宮、軍事施設、空港、工場団地、スーク（市場）での写真撮影は禁止されており、フィルム没収、警察連行も有り得る。記念写真の背景に偶然これらが写っていても、面倒なことになる場合があり十分に気を配るほうが良い。

また、モスク、アラブ女性の撮影も避けたほうが無難である。女性をどうしても撮影したい場合は、その女性の承諾を得てから写すように心がける。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

カタルには観光地、保養地は少ないが、日本にはない土漠—カタルは砂漠ではなく岩石、土が風化した土漠が主である—を中心に、砂丘群、奇岩、奇石そして、海岸線が観光地として、日本人や欧米人に人気がある。

ドーハから南に40キロに位置するウムサイド郊外に、美しい砂浜の海岸がある。その背景に砂丘が続いており、休日には四輪駆動車で砂丘にのぼりおりしているグループを見かける。またここには立派なりゾートホテル（コテージ形式）もあり、保養地として名高い。近辺内陸部には見渡す限り土漠がひろがり、砂丘が点在し、ラクダも各所に放牧されており、ここにテントを張り、家族、友人とバーベキューを楽しむのがカタル人のレジャーになっている。壮大な夕焼けと満点の星空は素晴らしい。

海岸線は長く、施設はないが、アラビア海に面した北に60キロ程のAL-KOHORは奇岩も含め、カタル人の別荘も点在する海浜リゾートである。

また内陸石油採掘現場のDUKAN（西50キロ程度）、及びその周辺の内陸奇岩群は素晴らしい。冬季（11月～3月）には不定期にラクダレースが開催されTVでも放映されるが、レース場はドーハから西40キロ程度の土漠の内にあり、一見の価値がある。

日本人会でも同志が集まり、海岸、砂丘ツアーを例年行っておりバーベキュー、釣りなどを各所で行っている。ホテル主催のツアー、欧米人同好会のツアーも有料で行われており参加できる。

12-3 旅 行

(1) 自動車

市内の道路は良く整備されており、主要道路は3車線で上下車線は分離されており、市内80キロ、近郊100キロ、郊外140キロが制限速度であり、運転者にとっては大変走行しやすい。しかし幹線道路以外は、特に土漠地帯は舗装がなく四輪駆動車でないと、行きたい所には行けない。（走行中ラクダが出て来ることがあり、要注意である。）

また幹線道路の地図はあるが、地方道路は地図にも掲載されておらず、案内板も

アラビア文字が主で不便である。幹線道路にガソリンスタンドは数多くあるし、値段も安い（IL-0.6リヤル）が地方道路にはスタンドが少なく注意を要する。

(2) バス

市内循環、郊外向けバス路線はあり、料金も安い^が、主に労働者が使用しているだけで、一般の乗客特に欧米人、日本人は利用していない。停車場は決まっておらず、降りるときは側面のガラスをたたき合図する。

(3) 鉄道

なし。

(4) 航空機

国内路線はないが、国際路線は各国に伸びている。

12-4 旅行代理店

町中にかなり多くの旅行代理店がある。信頼できる業者は限られており、自己確認を充分にするべきである。

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

海外ホテルの予約は、直接予約が可能であり、旅行代理店でも予約できる。旅行代理店経由の場合は全額前払い、手数料のみ支払いのケースがある。いずれも確実に予約がなされているか、数回の確認が必要である。その他はカタール内ホテル（シエラトン、ソフィテル、ラマダ）の提携ホテルを予約することもできる。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

現在、カタルに於いて、暴動、クーデターなどの心配はない。緊急時には日本大使館の指示に従って行動する。日本人会会員は電話連絡網がありこれが使用される。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

カタルは小国で大部分の人口は首都ドーハに集中しており、首都も小さいのですみずみまで警察の監視が行き届き、治安は極めて良好である。しかし、海外から独身、単身の出稼ぎ労働者が多数入国しており、希ではあるが性犯罪が何件か起きている。特に夜間の女性単独行動や車の運転、昼間でも女性一人のタクシー利用は避けるべきである。必要があれば少々高いがハイヤーの利用が安全である。

(2) 防犯対策

一般的治安の良さにもかかわらず、欧米人、日本人の中には空き巣、コン泥の被害にあった例がある。欧米人、日本人には酒類の購入権が (Liqueur Permit) があり、また家電、オーディオ製品が多いのを狙ったものである。犯罪を誘発しないためにも、戸締りを強化し、現金、貴重品などは施錠できるところに保管し、酒類も目立たないように保管すべきである。夜間は戸外の照明を付け、寝室に施錠することも薦められる。海外居住者安全対策の基本を守るべきである。

(3) 被害時の心得

できるだけ早く警察に届けると共に、日本大使館に連絡しなければならない。配属先のカタル人と共に警察に行くことが望ましい。

緊急時の連絡電話番号

警察、消防、救急車	999
日本大使館	831224
ハマド総合病院	446446

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

冬季には時折雷雨があり、道路、一部住宅が浸水することもあるが、地震、風水害の災害は少ない。火災も木造建築が少なく、自火以外は危険性が少ない。火災原因は漏電、台所用ガス漏れが主であるが、雨後の感電には要注意である。

(2) 防災対策

火災時に備えて、消火器の用意が望ましい。また貴重品、旅券などは1ヶ所にまとめる。電気、給水が停まることもありうるので、水や保存の効く缶詰などがある程度常備する。

(3) 被災時の心得

警察、消防署にすぐ連絡すると共に、日本大使館にも連絡の必要がある。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

(1) 空港設備概要

該当情報なし。

(2) 入国手続

入国カードは機内で到着前に配布されるので、あらかじめ記入する。

(3) 入国審査

記入した入国カードと旅券を審査官窓口提出する。GCC諸国民と外国人は窓口が分けられている。カタール国内の日本関係企業に勤務するため赴任する場合は、在日カタール大使館で最高3カ月程度有効なビザを取得して入国し、現地でスポンサーを通じてNO OBJECTION CERTIFICATE (NOC) に切り替えるか、あるいはあらかじめNOCを取得する。空港で取得する一週間のビジネス・ビザについても、あらかじめローカル・スポンサーのギャランティ・レターが必要である。ホテル経由の2週間の観光ビザも事前の手続が必要である。

また長期間滞在には、居留ビザを取得せねばならないが(14-(7) その他の留意点参照) 在留許可が取れないと、家族のビザ、運転免許、リカーパーミット取得、および電話、有線テレビの設置が出来ない。

(4) 税関検査

麻薬、酒類、公序良俗に反する雑誌、書籍は禁止されているうえ、場合によっては拘束処分を受けるので充分注意が必要である。手荷物だけではなく、預け手荷物、別送貨物もX線検査があり、瓶、缶類及び録画ずみビデオテープなどがあると、詳細検査もある。

録画ずみビデオテープは別途検閲もあり、大量持ち込みの場合1週間程度、検閲のため留め置かれる。

(5) 空港内での留意点

空港内写真撮影は禁止されていて、フィルム没収だけでなく、警察連行もありうるので十分に留意すべきである。

(6) 空港からの主な交通手段

空港出入り口にタクシー乗場があり、メーター制で市内まで約15リヤルであるが空港からドーハリムジン(電話320999)を呼ぶほうが無難である。主要ホテルのバスも手配できる。

(7) その他の留意点

ドーハ国際空港では主要通貨、トラベラーズチェックを両替する銀行窓口があるが、営業時間内でも礼拝のため係員が不在の場合もあり、できれば乗り換え空港で少量のカタール通貨(約100リヤル)を両替しておいた方が便利である。しかしドーハリムジンなどはドルも受け取る。

入国後諸手続としては、長期滞在者は大使館に在留届を提出(印鑑必要)し、カタール国在留許可(RESIDENT PEERMIT)を申請(配属機関が代行)しなければならない。必要書類は戸籍謄本、英文学校卒業証明、無犯罪者証明、証明書用写真10枚、A-1, B-1 フォーム写しなどを事前に用意しておく。診療所で胸部レントゲン、

問診、血液検査（含むエイズ）などを受け、移民局で指紋押捺の上、書類審査に入り取得までには数カ月かかる。

妻子の呼び寄せのビザ申請については配属機関が代行してくれるが取得までに数カ月かかる。必要書類は本人とほぼ同じであるが、追加書類として、結婚証明、本人との関係証明が必要となる。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

該当情報なし。

(2) 出国手続上の留意点

短期旅行者の出国はパスポートのみ。在留許可保有者は、出入国に制限はないが（含む休暇帰国、一時出国）、出国時にはスポンサーの出国許可証（EXIT PERMIT）が必要である。これは出国前に配属機関に理由書を提出し許可を受けてから受領のこと。内務省の手続があり、取得までに数日かかる。ただし、6ヵ月以上連絡なしに国外にいる場合は在留許可が無効になるので、事前手続が必要となる。

保有通貨は空港で換金出来ない場合があるので、事前に市内銀行で換金する。また再入国の可能性がある場合、帰任時のタクシー代、チップなどの為、少額紙幣を残しておくことを薦める。

14-3 帰国手続

(1) 出国時に必要な事務手続

任期満了時に帰国の場合は出国までに在留許可をキャンセルして、出国許可を取得しておく。手続を済ませておかないと、再度在留許可を申請する必要が生じたときにトラブルが発生するので留意する。

(2) 車の処分

自動車売却方法としては、在留邦人間または知人への売却が主ではあるが、仲介業者、新聞広告、スーパー掲示板利用などの方法もある。交通局で名義変更をする前に、保険の名義変更をして、売買当事者両名で手続をする。

(3) 家財道具の処分

荷物が多い場合、船便コンテナが便利であるが日本まで1ヵ月以上掛かる。携行機材返送は、必要書類をJICAに提出、承認を受け、別送する必要がある。

任地で処分する場合は通常在留邦人間での処分、またはコンパウンド内での住人間でガレージセール、または入居時から契約をしておいて不動産仲介業者に依頼する。

(4) 住宅の明け渡し

家主または仲介業者（家主代行者）への通告は通常1ヵ月前であるが、契約書によりさまざまであるから、注意を要する。出発数日前にはホテルに移動したほうが便利である。電話局への届け出（支払い証明の入手）、水道、電気料金の支払いも領収書を入手すること。

(5) 外貨持出し規制

該当情報なし。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

カタルの主な貨物輸送業者は以下のとおりである。

QATAR NATIONAL NAVIGATION & TRANSPORT CO.	TEL 321175
DELMA FREIGHT SERVICES	TEL 326992
UNITED ARAB SHIPPING CO.	TEL 322158 東京 3587-8910

(2) 輸入手続

家財などの輸入は原則無税であるが、手続は輸送業者に代行させる。必要書類は船荷証券 (B / D パスポートなど)

(3) 家財道具の購入

欧米家財道具取り扱い店は数多くあり種類も豊富である。日用品はスーパーでも豊富に取り扱っている。

15-2 自動車

(1) 一般状況

自動車の輸入は自由であり、関税率も低い。しかし自動車販売店の数は多く現地での整備、部品などの問題からも現地での購入を薦める。

(2) 輸入手続

例はないが新車の場合日本側販売店が行い、通関、陸上輸送は地元運送業者が行う。

(3) 任国での購入

日欧米の販売店が揃っており、在庫品は2～3日で入手できる。値段も日本国内販売価格より割安である。登録手続きは販売店側で行う。中古車市場はあるが、信用の置ける業者を選ぶこと、そのほか新聞広告、スーパー掲示板、邦人間の相対売買もある。

(4) 自動車登録

必要書類は保険証書、登録申請書、その他で業者代行が一般的である。毎年車検があり、ステッカーが更新交付される。(業者代行) これを怠ると更新時に課徴金をとられる。

(5) 免許証取得

国際免許は原則的には通用せず (短期的には交通局による特別策置あり)、在留許可取得後、日本大使館による日本の免許証翻訳証明、パスポート、印紙、カラー写真を持参、できれば配属機関担当者と共に交通局試験場に行く。適性検査、道路標識試験、実技試験があり (道路標識、交通法解説書は交通局にある。) 2～3日後に交付されるが、実技試験はかなり厳しい。自動車学校は3カ所ほどあり事前に10回程度通うことを薦める。公用旅券保持者は日本大使館の助力を頼むと比較的簡単な試験で合格する。

(6) 保険、税金

自動車保険は強制保険となっている。対人、対物、総合と各種あり日本とシステムは変わらない。自動車保有税はない。

16. 社 交

16-1 風俗習慣

カタルはイスラム教の戒律により、かなり厳しい規制がある。禁酒政策のため酒類の持ち込みは一切認められておらず、レストランでの酒類のサービスも一部のホテル内、又は外国人クラブ以外では禁止事項になっている。

また豚肉を食べる事も禁止されており、国内で豚肉、豚肉製品（ハム、ベーコン、ソーセージなど）の販売はないし、持ち込みできない。

カタル人女性は大部分が黒のマントを着ており、人前ではアバヤと称する黒いベールで顔を隠している。これは夫以外の男性に素肌を見せない習慣である。また公式のパーティは男性のみの場合が多く、たとえ男女混合の場合でもカタル女性が出席することは非常に希である。しかし女性だけの集まりもかなり普及して来た。レストランでもファミリールームと称する一角が設けられており、一般席とは別になっている。このような習慣をふまえて、アラブ女性の写真撮影、およびモスク内部の撮影などは避けたほうが無難である。

16-2 パーティでの留意点

カタル人は封建的な民族で、付き合う際は常に相手の宗教、風俗、習慣などに配慮し、西欧的な物の見方、考え方を強調すべきではない。来る者は例え敵であっても拒まず歓迎するアラブの習慣を尊重し、気軽に相互訪問し、連絡、往来を絶やさないよう心がけるべきである。

16-3 来客時の留意点

一般的に酒類はアラブ系の客には出さない方が無難である。またカタル人の夕食時間は我々に比べて時間的に遅く大体21時ころに始まる。その点も考慮して接待すべきである。

16-4 訪問時の留意点

カタル人家庭に招待された場合、一般的には男女別席であり、通常は男性のみの場合が多いので、一般的には家族は同伴しないほうが良い。

また、初回訪れる場合は手土産を持参することが礼儀であり、招待されたらこちらにも招待することも習慣である。

アラブ料理は手で食べるのが正式であり、その場合左手は不浄とされており、右手だけを使用する。通例、外国人にはナイフ、フォークが提供される。

16-5 禁止されている言動

イスラム教に関する不要な発言、政治的な話題は避けるべきである。ラマダン（断食月）には、日の出から日没まで食事、水、タバコなど一切口にしない月があり、例え外国人であっても、屋外、公衆の面前では順守すべきであり、注意、罰金の対象にもなる場合がある。自家用車の中も対象範囲であるので注意を要する。この間市内のホテル内を含むレストランは昼間の営業を停止しておりルームサービスのみになり、スーパーなどの商店も開店時間が変更になる。官庁、会社も勤務時間が変更になる場合が多い。

16-6 その他の留意点

敬謙なイスラム教徒は、一日5回の祈りは欠かさない。そのため例えば会議中であつても、一次中断されることがある。イスラム教は月の満ち欠けが暦の計算基準であり、イスラム暦は我々の太陽暦とは異なり、ラマダン、祈りの時間も年月によって変更されるため一定ではない。祈りは一定の作法に則って行われ、メッカの方角に向かって大地、床にひざまずいて行われるので、祈りの最中声をかけたり、前を横切ったりしてはいけない。

17. 任国官公庁

国防省 (Ministry of Defence)

P.O. Box 37, Doha TEL 404111

教育省 (Ministry of Education)

P.O. Box 80, Doha TEL 413444

外務省 (Ministry of Foreign Affairs)

P.O. Box 250, Doha TEL 415000

内務省 (Ministry of Interior)

P.O. Box 2433, Doha TEL 330000

財政・経済・通商省 (Ministry of Finance, Economy and Commerce)

P.O. Box 1968, Doha TEL 434888

水・電気省 (Ministry of Water and Electricity)

P.O. Box 41, Doha TEL 326622

自治・農業省 (Ministry of Municipal Affairs and Agriculture)

P.O. Box 2727, Doha TEL 413535

法務省 (Ministry of Justice)

P.O. Box 4696, Doha TEL 427375

労働・社会問題・住宅省 (Ministry of Labour, Social Affairs and Housing)

P.O. Box 201, Doha TEL 321934

運輸・通信省 (Ministry of Transport and Communications)

P.O. Box 3416, Doha TEL 414855

保健省 (Ministry of Public Health)

P.O. Box 42, Doha TEL 441555

情報・文化省 (Ministry of Information and Culture)

P.O. Box 1836, Doha TEL 831333

エネルギー・産業省 (Ministry of Energy and Industry)

P.O. Box 38, Doha TEL 832121

18. 在外日本関係機関など

在カタール日本大使館

住 所 P.O. Box 2208, Doha

電 話 831224～5

ファックス 832178

19. 地方都市

該当情報なし。

任国情報コメント用紙

本書をより使い易いものとするために、皆様からの貴重なご意見（説明不足、間違い、誤字、脱字、ご要望など）をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、任国情報に関することのみ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。

[送付先] 〒162 東京都新宿区市谷本村町 10-5
 国際協力事業団国際協力総合研修所
 技術情報課 任国情報係

国名				年度	年版		
氏名				年齢	歳	性別	男・女
利用区分	所属(担当)部課名	指導科目	派遣期間				
JICA役職員							
JICA専門家等							
その他	(所属先)			(当該国での滞在期間)			
住所							
電話番号				日付	年	月	日
ページ	行	内 容					
国 総 研 記 入 欄							
記事	技術情報課確認印						
	データベース修正処理			課長	代理	担当	
	月日		月日	月日	月日		

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任される JICA 長期派遣専門家、JICA 職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。なお、政府技術協力のために赴任する JICA 役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルです。したがってご利用は JICA の用務による業務渡航者に限らせていただいております。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステイタスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、JICA 図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

-----アジア地域-----

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア
(ジャカルタ、バンドン、ジョグジャカルタ、メダン)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
18. ヴィエトナム

-----中近東地域-----

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタル
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
15. アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブダビ、ドバイ)
16. イエメン (サナ)

-----太平洋地域-----

1. フィジー
 2. キリバス
 3. ミクロネシア
 4. パラオ
 5. バブア・ニューギニア
 6. ソロモン諸島
 7. ヴァヌアツ
 8. 西サモア
- 欧州地域-----
1. カザフスタン
 2. キルギスタン
 3. ポーランド
 4. タジキスタン
 5. トルクメニスタン
 6. ウズベキスタン
 7. ハンガリー
 8. ブルガリア

-----アフリカ地域-----

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エチオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. ギニア・ビサウ
11. コートジボアール
12. ケニア
13. リベリア
14. マダガスカル (アンタナナリボ、ディエゴ・スアレ)
15. マラウイ
16. モーリシャス
17. モザンビーク
18. ニジェール
19. ナイジェリア
20. ルワンダ
21. サントメ・プリンシペ
22. セネガル
23. セイシェル
24. ソマリア
25. タンザニア (ダルエスサラーム、ザンジバル)
26. トーゴ
27. ザイール
28. ザンビア
29. ジンバブエ
30. スワジランド
31. ボツワナ

-----中南米地域-----

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル (ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、ポルトアレグレ、ベレーン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ (アスンシオン、エンカナンシオン)
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダード・トバゴ
18. ウルグアイ
19. ヴェネズエラ
20. ニカラグア

「任国情報（カタール）1996年版」

平成8年3月20日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03) 3269-2357

編集協力 財団法人 日本国際協力センター
